

研究教育業績（2014-2018 年度）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Akiko Chukyo., Terumasa Chiba., Toshie Kanbe., Ken Yamamoto., Kazuyoshi Kawakami., Kyoji Taguchi., Kenji Abe, Oxaliplatin-induced changes in expression of transient receptor potential channels in the dorsal root ganglion as a neuropathic mechanism for cold hypersensitivity. *Neuropeptides*, 67 (2), 95-101 (2018)
- 2) Terumasa Chiba., Yusuke Oka., Hiroya Sashida., Toshie Kanbe., Kenji Abe., Iku Utsunomiya., Kyoji Taguchi., Vincristine-induced peripheral neuropathic pain and expression of transient receptor potential vanilloid 1 in rat. *Journal of Pharmacological Sciences*, 133 (4), 254-260 (2017)
- 3) Terumasa Chiba., Yoshinori Otani., Yoshihide Yamaguchi., Tomoko Ishibashi., Akiko Hayashi., Kenji F. Tanaka., Maya Yamazaki., Kenji Sakimura., Hiroko Baba., Microglial phospholipase D4 deficiency influences myelination during brain development. *Proceedings of the Japan Academy, Series B*, 92 (7), 237-254 (2016)
- 4) Terumasa Chiba., Yusuke Oka., Toshie Kambe., Naoya Koizumi., Kenji Abe., Kazuyoshi Kawakami., Iku Utsunomiya., Kyoji Taguchi., Paclitaxel-induced peripheral neuropathy increases substance P release in rat spinal cord. *European Journal of Pharmacology*, 770 (5), 46-51 (2016)
- 5) Ken Yamamoto., Noriko Chiba., Terumasa Chiba., Toshie Kambe., Kenji Abe., Kazuyoshi Kawakami., Iku Utsunomiya., Kyoji Taguchi., Transient receptor potential ankyrin 1 that is induced in dorsal root ganglion neurons contributes to acute cold hypersensitivity after oxaliplatin administration. *Molecular pain*, 11 (1), 69 (2015)

2. 主な学会発表

[国内学会]

- 1) 関佳奈子, 千葉輝正, 神戸敏江, 田口恭治, 阿部賢志, 坐骨神経結紮痛覚過敏モデルマウスの神経科学的評価ー脊髄における変化ー, 日本薬学会第 139 年会, 3 月, 千葉 (2019)
- 2) 千葉輝正, 松永栄智, 岡裕介, 神戸敏江, 川上和宜, 田口恭治, 阿部賢志, Vincristine 誘発による末梢神経障害に関する検討ーSubstance P の影響ー, 日本薬学会第 138 年会, 3 月, 金沢 (2018).
- 3) 齋藤博, 岡村祥太, 千葉輝正, 中村有貴, 足立哲也, 新井利次, 小川晴久, 根岸新一, 山下裕, 亀卦川誠也, 杉田一郎, 山崎敏彦, 野澤直美, 木村道夫, 佐藤卓美, 薬学部における低学年のためのアクティブラーニングの実践, 日本薬学会第138年会, 3月, 金沢 (2018).
- 4) 安部望里, 石井汰王, 千葉輝正, 小林賢, 脇能広, 高校生を対象とした薬物乱用に対する意識調査, 日本薬学会第 138 年会, 3 月, 金沢 (2018)
- 5) 千葉輝正, 大谷嘉典, 山口宜秀, 田中謙二, 崎村建司, 林明子, 馬場広子, 発達段階の脳白質において活性化ミクログリアに発現する PLD4 の機能解析, 日本薬学会 第 135 年会 3 月, 神戸 (2015)

3. その他特筆すべき研究業績

Ⅱ. 教育業績

1. 担当授業科目

平成 30 年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3 年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3 年)
- 3) 薬学総合演習Ⅰ (4 年) 1 コマ
- 4) 薬学総合演習Ⅱ (6 年) 2 コマ
- 5) 薬学体験学習 (1 年) 1 コマ
- 6) 実務実習プレ教育 (4 年) 2 コマ

平成 29 年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3 年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3 年)
- 3) 薬学総合演習Ⅰ (4 年) 2 コマ
- 4) 薬学総合演習Ⅱ (6 年) 2 コマ
- 5) 薬学体験学習 (1 年) 1 コマ
- 6) 実務実習プレ教育 (4 年) 2 コマ

平成 28 年度

- 1) 医療系実習 (3 年)
- 2) 薬理系実習 (3 年)
- 3) 医療ビジネス薬科学演習 (3 年) 1 コマ
- 4) 薬学体験学習 (1 年) 1 コマ
- 5) 実務実習プレ教育 (4 年) 1 コマ

2. その他特筆すべき教育業績

平成 30 年度

- 1) キャリアガイダンス、栄北高等学校 (2018 年 6 月 7 日)
- 2) 薬物乱用防止講演、都立中野工業高等学校 (2018 年 12 月 21 日)
- 3) 理科教員のための実践教養講座 (2019 年 1 月 19 日)

平成 29 年度

- 1) 薬物乱用防止講演、県立大宮工業高等学校 (2017 年 6 月 15 日)
- 2) キャリアガイダンス、浦和学院高等学校 (2017 年 7 月 12 日)
- 3) キャリアガイダンス、国際学院高等学校 (2017 年 7 月 19 日)
- 4) 薬物乱用防止講演、都立葛飾野高等学校 (2017 年 11 月 15 日)
- 5) 人体解剖セミナー (日本大学医学部機能形態学系生体構造医学分野協力) (2017 年 12 月 2 日)
- 6) 薬物乱用防止講演、都立瑞穂農芸高等学校 (2018 年 1 月 29 日)
- 7) キャリアガイダンス、都立江北高等学校 (2018 年 3 月 15 日)
- 8) 薬物乱用防止講演、都立富士森高等学校 (2018 年 3 月 16 日)
- 9) 薬物乱用防止講演、都立小平高等学校 (2018 年 3 月 19 日)

10) 薬物乱用防止講演、都立調布南高等学校（2018年3月20日）

平成28年度

1) 薬物乱用防止講演、都立多摩高等学校（2016年7月14日）

2) 人体解剖セミナー（日本大学医学部機能形態学系生体構造医学分野協力）（2016年10月29日）

3) 薬物乱用防止講演、都立清瀬高等学校（2016年11月9日）